

阿佐谷七夕まつりが神戸に

いよいよ明日4日から8日まで、東京の夏の風物詩「第64回阿佐谷七夕まつり」が開催されます。商店街の店主などが、手づくりした張りぼて80あまりがアーケードから吊るされ、毎年約80万人でにぎわいます。その阿佐谷の張りぼてが、今回は神戸市長田区の大正筋商店街で再び買い物客を楽しませることになっています。

阿佐谷七夕まつりは、昭和29年、当時、暑い盛りの8月にも商店街に人を集めることができないかと考え、阿佐谷パールセンターで始まりました。現在は、JR阿佐ヶ谷駅周辺の商店会にも拡大し、「張りぼて」を使った個性的なまつりは、阿佐谷の街全体で盛り上げる夏の一大イベントとなっています。また、平成26年には、阿佐ヶ谷駅の発車のベルにも「たなばたさま」のメロディーが使われるなど、七夕は阿佐ヶ谷の代名詞となっています。

その「張りぼて」を使った七夕まつりを神戸の下町商店街の復興とまちの一体感を取り戻すために根付かせたいと考えた人物がいます。七夕まつりのスタッフTシャツを身にまとった家崎美明（いえざきよしあき・53歳 写真右）さんです。家崎さんは、本業のデザイン業の傍ら、平成26年、神戸市の商店街・小売市場の活性化事業「神戸市 商店街・市場 応援隊」の隊長となり、多くの商店街の活性化に取り組み、以降も神戸市商店街連合会の支援コンサルタントとして、商店街の活性化に尽力しています。今回の大きな目的は、平成7年1月の阪神・淡路大震災で活気を失った商店街の再生です。



神戸市長田区にある大正筋商店街は、JR新長田駅の南に位置し、下町の雰囲気が残った商店街でしたが、震災で大部分が焼失したため、神戸市の再開発事業により、立派なアーケードを備えた都会的な商店街として再スタートしました。しかし、地場産業の衰退や人口の流出などで、それまでの下町らしい文化やふれあいが失われ、商店街も店主の高齢化や後継者不足で、かつての活気を取り戻すことができていません。

その大正筋商店街を再生するために、家崎さんが導入を考えたのが張りぼてを使った七夕まつりです。阿佐谷のアーケードを彩る張りぼては、店主や地域の小中学生など多くの住民が参加し手づくりされています。もちろん、まつりの期間中には想像をはるかに超える来場者です。大正筋商店街の広く高いアーケードを賑やかに飾り、地域も一体化する張りぼて。昨年8月に阿佐谷七夕まつりを実際に観て、「これだ!」と思ったそうです。早速、大正筋商店街の理事会に提案、商店街再生を掛け、取り組むことが決まり、阿佐谷パールセンター商店街に協力を依頼しました。

家崎さんの熱意は阿佐谷パールセンター商店街にも伝わり、協力を快諾。数回の交流を経て、7月22～24日には張りぼてづくりに参加。そして今年、七夕まつりで使われた張りぼては、9日にトラックで神戸に運ばれ、11～23日の間、「阿佐谷七夕まつり 傑作はりぼて展示」として、大正筋商店街のアーケードに展示されることになっています。また、この張りぼてづくりは、来年以降は商店街のメンバーや地元の学生・住民などとともに取り組むができるよう準備を進めています。七夕は、星に願い事をする日本の伝統行事です。大正筋商店街の再生の願いが叶うことを祈ります。

【問い合わせ先】阿佐谷パールセンター商店街：03-3312-6181

総務部広報課：03-3312-2111 内線1502